

YAMAHA

DMC1000

Digital Mixing Console
オペレーションシステムV3.0
取扱説明書

- プロジェクトマネージャーの操作方法は、プロジェクトマネージャーV3.0についている取扱説明書をお読みください。
- プロジェクトマネージャーに関しては、販売店にお問い合わせ願います。

YAMAHA

DMC1000

Digital Mixing Console
ヤマハ・エレクトロニクス・V2.0
取扱説明書

- このDMC1000は、ヤマハ・エレクトロニクス・V2.0のデジタルミキシングコンソールです。この取扱説明書は、このコンソールの正しい使用方法を説明するために書かれています。
- この取扱説明書は、このコンソールの正しい使用方法を説明するために書かれています。

操作上の注意事項

DMC1000の操作を始める前に、必ず下記の注意事項をお読みください。

安全上の注意

- ・ DMC1000の電源コードが歩く場所にあつたり周辺の機器に挟まれていたりしないようにしてください。
- ・ 正しい接地(アース)がおこなわれていることを確認してください。電源コードについては、DMC1000のGND端子をコンセントの接地点に接続してください。
- ・ DMC1000の動作保証温度は0℃～35℃です。直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど高温となる場所には置かないでください。また、温度の低い場所には置かないでください。とくに結露しないよう注意してください。
- ・ 過度の湿気を避けてください。
- ・ 次のような場所には設置しないでください。

水の近く

過度のほこりを被るところ

振動の激しいところ

- ・ 極度の衝撃を受けないように注意してください。

重要注意事項

- ・ 火災や感電を避けるため、DMC1000を雨や湿気にさらさないでください。
- ・ DMC1000内部には予備の修理部品はありません。感電を避けるため、DMC1000を分解しないでください。アフターサービスについては、認定のサービス担当者におまかせください。
- ・ DMC1000は高周波で作動するデジタル回路を使っています。このため、テレビやラジオをDMC1000の近くで使用すると受信障害を生じることがあります。そのような場合は、受信障害を起こしている装置とDMC1000とを離してください。
- ・ 次の状況が発生した場合は、認定のサービス担当者にDMC1000のサービスを依頼してください。

電源コードやプラグが損傷した

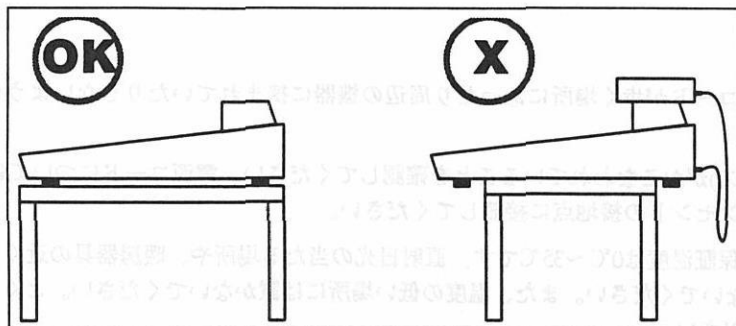
金属や液体が内部に入った

雨に濡れた

正常に作動しない、または性能に著しい変化が生じた

設置

上面および下面のパネルには通風口があります。物を上面パネルの上に置いたり、下面パネルと台の表面とを密着させたりしないでください。



ディスクドライブ

DMC1000のフロッピーディスクドライブには、移動中にヘッドが傷つかないようにダミーのディスクを挿入して出荷されています。フロッピーディスク機能を使用する前には、必ずこのダミーのディスクを取り出してください。また、DMC1000を移動する時は、ダミーのディスクを挿入してください。

メモリーバックアップ用電池

DMC1000は寿命の長い電池を使って、内蔵RAMメモリー(オペレーティング・システム、セットアップデータ、内部シーンメモリー等)をバックアップします。電池は約5年間持続し、電圧は"INT"の[RAM Card] LCD機能で確認することができます。電圧値が2.5V以下に下がったら、最寄りのヤマハ代理店で電池を交換してください。ご自分では交換しないでください。

コネクター接点

DMC1000のリアパネル上にあるコネクター端子は、6ヶ月ごとに清掃して、常に導通をよくしてください。清掃には品質のすぐれた接点クリーナー(スイッチクリーナー)をご使用ください。

DMC1000の清掃

DMC1000本体の清掃には、柔らかく、少し湿した布を使用してください。落ちにくい汚れはマイルドな洗剤液を使って取ります。研磨タイプのクリーナーや、アルコール、ベンジンなどの溶剤は決して使わないでください。

著作権について

DMC1000のソフトウェアあるいは本取扱説明書のどの部分も、ヤマハ株式会社の文書による承認がない限り、いかなる方法でも複製、配布をすることは禁じられています。

商標

商標はすべて該当する商標保持者が所有します。

DMC1000に同梱されている品目

- ・ DDKD-sub 25ピンクロスケーブル
- ・ JAED-sub 25ピンストレートケーブル
- ・ YDC805 8ピンDINケーブル
- ・ システムディスク
- ・ 未使用3.5インチフロッピーディスク
- ・ ダミーディスク(ヘッド保護用)
- ・ MDC64 RAMカード

DMC1000に同梱されている品目

- DDKD-8P22Rメカニカルキー
- 1AED-8P22Rメカニカルキー
- ADG802 8Pメカニカルキー
- システムキー
- 本器用32Pメカニカルキー
- システムキー(本器用)
- 1AED-8P22Rメカニカルキー

操作上の注意事項	i	インプット・チャンネル7, 8 (チャンネル)	41
DMC1000に同梱されている品目	iii	ステレオコンストラクション	42
はじめに	1	MSデコーダー	43
DMC1000の世界へようこそ	1	第4章：モニター・チャンネル	44
DMC1000とは？	1	モニター・チャンネルの接続	44
特長	1	入力フォーマットの設定	44
アプリケーション	1	ダイレクト出力の設定	45
本取扱説明書についての注意事項	2	パッド	45
DMC1000の用語	2	LPF & HPF	46
第1章：DMC1000の概要	3	[EQ]キー (バイパス) †	46
コンソール	3	EQ	46
リアパネル	13	インサート	46
第2章：基本操作	17	ディレイ	46
電源オン/オフ	17	フェーズ	46
時計	17	[On]キー (ミュート) †	46
チャンネルの選択	18	Routing	46
LCD機能について	19	パン	46
Auto Parameter Screen (自動パラメータ画面)	20	LEVELコントロール †	47
オペレータレベル	21	フェーダー †	47
ケーブル接続についての注意	24	[SOLO]キー †	48
初期設定	25	AUXセンド	48
ワードクロックのセットアップ	25	AUX3センド・パン	48
RECモード、MIXモード	28	AUXセンド・ダッキング	48
[FLIP]キー	28	メータリング	49
データの構造	29	ステレオコンストラクション (モニター・チャンネル)	49
第3章：インプット・チャンネル	31	MSデコーダー	49
インプット・チャンネルの接続	31	第5章：ステレオ・チャンネル	50
入力フォーマットの設定	31	ステレオ・チャンネルの接続	50
ダイレクト出力の設定	32	インプットの選択	50
パッド	33	ダイレクト出力の設定	51
LPF&HPF	33	パッド	51
[EQ]キー (バイパス) †	33	LPF&HPF	52
EQ	33	[EQ]キー (バイパス)	52
インサート	36	EQ	52
ディレイ	36	インサート	52
フェーズ	38	ディレイ	52
[On]キー (ミュート) †	38	フェーズ	52
Routing	38	[ON]キー (ミュート)	52
パン	38	Routing	52
フェーダー †	39	パン/ウィズス	53
[SOLO]キー †	40	バランス	53
AUXセンド	40	フェーダー	54
AUX3センド・パン	40	[SOLO]キー	54
AUXセンド・ダッキング	41	AUXセンド	54
メータリング	41	メータリング	54

第6章：バスアウト(グループ出力)	55	第11章：2TRモニター入力	67
デジタル出力接続	55	ヤマハ8ピンDIN入力、エンファシス	67
バス出力フォーマットの設定	55	2TRモニターソース選択	67
メータリング	55	2TRモニター信号をインプット・チャンネル7, 8へ入力	68
バス出力レベルの設定	55	第12章：トークバック、スレート	69
バスレベルをステレオペアとしてコントロール	56	トークバック&スレートバスのアサイン	70
バス出力のモニター	56	スレート・オシレーターのセットアップ	71
第7章：ステレオ出力	57	第13章：メータリング	72
デジタル出力接続	57	L STEREO Rメーター	72
CD/DATコピー禁止	57	メーターバンクI, II, III	72
ステレオ・インサート	57	ピークホールド	73
ステレオ・オン/オフ	57	メーター・ピークホールド、フォールタイム	73
フェーダー	58	第14章：エフェクト	74
バランス	58	内蔵エフェクトの使い方	75
メータリング	58	外部エフェクトの使い方	76
ノイズ・シェーピング	59	内蔵エフェクト・パラメータ	77
第8章：C-R、SMALL/LARGEモニター、フォン	60	第15章：グルーピング、リンク、[GLOBAL]キー	83
出力接続	60	フェーダーのグルーピング	83
C-Rモニター[EXT],[CUE],[ST]キー	60	チャンネルのリンク	85
[MONO]キー	61	[GLOBAL]キー	87
AFL LEVEL	61	第16章：フロッピーディスクの操作	88
SOLO[AFL]キー	61	ディスクのフォーマット	89
SOLO Clear at Recall	61	データのセーブ	89
セーフ・チャンネル	62	ディスク上の全ファイルのリスト	89
DIM LEVELコントロール	62	データのロード	90
DIM[ON]	62	オートメーション・データのロード	90
バランス	63	ファイルの削除	90
メータリング	63	第17章：シーンメモリー	91
SMALL LEVELコントロール	63	シーンメモリーとは?	91
LARGE LEVELコントロール	63	内部シーンメモリーとRAMカード・シーンメモリー	91
[SMALL]キー	63	シーンメモリー0	91
PHONES LEVEL	63	シーンメモリー・ナンバーの表示	91
第9章：スタジオモニター、キューモニター	64	RAMカードの使用	92
出力接続	64	RAMカードのシーンメモリー	92
CUE[MON]キー	64	シーンメモリーの保存	93
CUE LEVELコントロール	64	シーンメモリーの呼び出し	94
CUE[ON]キー	64	シーンメモリー保存と呼び出しのアンドウ	94
STUDIO MONITOR LEVELコントロール	64	シーンメモリー・タイトル	94
STUDIO MONITOR[ON]キー	64	タイトルの保存禁止	95
メータリング	64	特定パラメーターのみの保存と呼び出し	95
第10章：AUXマスター・センド	65	[S/R Pmn.]のシーンメモリーへの保存	96
AUX出力接続	65	フェードタイムの設定	97
AUX SEND[ON]キー	65	長期にわたるシーンメモリーの保存、バックアップ	97
AUX SEND LEVELコントロール	65		
AUXセンドのモニタリング	66		
メータリング	66		
AUXセンドと内蔵エフェクト	66		

第18章：オートメーション	98	フェーダーのキャリブレーション	125
オートメーションとは？	98	DSPリセット	126
[AUTO]キー	98	第20章：MIDIとDMC1000	127
オートメーション・レコーディングの手順	98	送受信	127
オートメーションと同期	99	基本セットアップ	127
全トラックのクリア	101	プログラムチェンジ	128
最初のシーンメモリー	102	シーンメモリーのプログラムチェンジへのアサイン	128
トラックのセットアップ	103	コントロールチェンジ	129
レコーディングされるもの	104	MIDIコントロールチェンジのアサイン	129
記録(レコーディング)トラックの選択	104	マルチコントローラアサイン	130
Record READYモード	105	バルクダンプ(システムエクスクルーシブ)	130
Auto Recordモード	105	バルクダンプとDMC1000カスケード	131
内蔵シンクの記録スタート	105	システムリアルタイムメッセージ(MIDIクロック)	131
MIDIクロック・シンクの記録スタート	105	MTC	131
内蔵タイムコードシンクの記録スタート	106	フェーダースタートコマンド	131
TC IN, MIDI TCシンクの記録スタート	106	第21章：DMC1000のカスケード	132
記録の中止	106	ダイレイ設定	132
記録停止	106	カスケードバス・アイソレーション	133
最後の記録のアンドゥ	106	カスケードバス・パッド	133
シーンメモリーを作業中に録音	107	ソロ	133
再生	107	カスケード、シーンメモリー、MIDI	134
オートメーション・ロケート・モード	107	カスケード、MIDIバルクダンプ	134
モーターオン/オフ	107	第22章：ビデオエディット・コントローラー	135
オンライン・エディット	108	リモート・パリテイ	135
Absolute Up-dateモード(フェーダーのみ)	108	ESAM IIソース・モード	135
Absoluteモード、Relativeモード(フェーダーのみ)	108	ESAM IIコマンドリスト	135
Replaceモード、Insertモード	109	第23章：システム例	138
Insertモード、フェーダー、テイクオーバータイム	109	8トラックDMC1000/DRU8システム	138
Keep Touchモード	110	24トラックDMC1000システム	140
範囲外のフェーダー	110	DATへのマスタリング	142
他のパラメーターのInsertモード	110	デジタル2トラックへのマスタリング	143
Insertモード、カットスイッチデータ	111	アナログ2トラックへのマスタリング	143
パンチイン/アウト	111	YPDR601へのマスタリング	143
シーンメモリー・リコールリストのエディット	112	オーディオ/ビデオシステム1	144
オフラインでのデータのエディット	113	オーディオ/ビデオシステム2	145
トラック・エディット機能	114	DMC1000/ハードディスクレコーダーシステム	146
トラックデータのコピー	115	DMC1000/Sonyマルチトラックシステム	147
オートメーション・データのセーブ	115	PCM-3324からDMC1000へ	147
オートメーション・データのロード	115	DMC1000/Mitsubishi マルチトラックシステム	149
オートメーション、MIDI	116	付 録 A	151
第19章：その他の機能	117	トラブルシューティング	151
エンファシス	117	LCDメッセージ	152
AES/EBUチャンネルステータス、ユーザービット	119	用語集	162
ビットシフト・デジタル出力信号	121	参照資料	163
ディスクからのシステム・ソフトウェアのロード	123	デジタル・オーディオ・フォーマット	164
オペレーティング・システムのバックアップ	123	関連ヤマハデジタル・オーディオ装置	166
システムの初期化	124		
A/Dコンバータ・オフセットのキャリブレーション	125		

はじめに

DMC1000の世界へようこそ

このたびはDMC1000デジタルミキシングコンソールをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。DMC1000はフルデジタル信号処理する、初めてのトータル・オートメーションのオールデジタル・ミキシング・コンソールです。完全、つまり100%すべてのパラメーターのミックス・オートメーションを実現した唯一のミキサーです。

DMC1000とは？

融通性のきく8入力、8バス、8モニター、3ステレオリターンのミキサーに、28ビット以上のデジタル・オーディオ処理技術と完全(100%)ミックス・オートメーションを加えたコンソールを考えてみてください。DMC1000像にかなり近くなるはずです。これに下記の特長が加わって、完全なDMC1000像ができあがります。

特長

- ・ スムーズで正確なモーター作動100mmのフェーダーにチャンネル・タッチ・セレクト機能を付加
- ・ 各バンド8種類のフィルターから選択できる、4バンド、完全パラメトリック・イコライザー
- ・ チャンネルをリンクさせ、ひとつのチャンネルの変更だけで複数チャンネルのパラメーターをまとめてコントロール
- ・ フェーダーをグルーピングし、一つのフェーダーだけで複数のフェーダーをコントロール
- ・ 隣接チャンネルをステレオペアに組むことが可能
- ・ ステレオペアとして組んだチャンネルのMSデコーディング
- ・ 最高96個のミックスシーン(スナップショット)を一つのミックスセッションで使用可能
- ・ (フェーダーやミュートだけでなく)全パラメーターの完全(100%)ミックス・オートメーション
- ・ SPX1000クラスの2系統の高品位デジタル・マルチエフェクト・プロセッサーを内蔵
- ・ 最高64個のRAMカードのシーンメモリー
- ・ 全データをバックアップ、保存、あるいは将来の使用のために35インチ、フロッピーディスクにセーブ可能
- ・ ピークホールド機能付22のLEDピークメータで、入出力レベルをモニター
- ・ わかりやすいアナログ、デジタル入出力接続端子
- ・ YAMAHA Y1/Y2, SDIF2, M 各フォーマットのデジタル・オーディオを完全にインターフェース可能
- ・ 複数のDMC1000をカスケード接続による多チャンネル対応
- ・ SMPTE (24, 25, 30, 30Dfps) およびMTCのタイムコードにオートメーション同期
- ・ 業界標準ビデオエディットコントローラーで使われているESAMIIプロトコルに対応
- ・ コントロールチェンジやプログラムチェンジを使って、MIDIコンピュータやMIDIシーケンサーから遠隔操作

アプリケーション

- ・ 究極のオーディオ処理品質を要求するオーディオ・ミックス
- ・ クラシック音楽、ポピュラー音楽、劇場、放送、16ビットや20ビットのCDマスタリング、オーディオ/ビデオ、SR
- ・ 実用例については、138ページ「システム例」をお読みください。

本取扱説明書についての注意事項

本取扱説明書は、DMC1000の各セクションごとに、たとえば「インプット・チャンネル」、「エフェクト」、「オートメーション」というように章が分かれています。このため、ステレオ・チャンネルのバランス機能について知りたければ、「ステレオ・チャンネル」の章をお読みください。同様に、RAMカード・シーンメモリーについては、「シーンメモリー」の章を開いてください。

LCDに最下行に表示されるLCD画面の名前はカッコ[]で囲んでいます(例:[I.Format])。LCD画面に付いては、索引で捜してご参照ください。

信号を入力したところが、出力しない、メーターが振れない、モニターできないなど、行き詰まった場合、または、どうなるのかと興味深々の場合は、本取扱説明書最後のブロック図を参照してください。これは複雑でも何でもありません。他のミキサーと同様、信号が片方から入りもう片方から出ていくだけのことです。

パラメーターの設定範囲は、選択したサンプリング周波数によって異なることがあります。このため、本書に記載されているパラメーターの範囲と実際に設定できる範囲に差のある場合があります。本書は44.1kHzを前提に書かれています。

DMC1000の用語

DMC1000は、8つのインプット・チャンネル、8つのモニター・チャンネル(テープリターン)、3つのステレオ・チャンネル(エフェクト/AUXリターン)を装備しています。ステレオ・チャンネルA,Bは内蔵エフェクター用のエフェクトリターン・チャンネルとしてか、または通常のステレオ入力として使えます。

2TRモニター入力が2トラック・マスターのモニター、再生用に装備されています。2TRモニター信号は、インプット・チャンネル7,8に送ることができます。

ダイレクト・デジタル出力が全インプット・チャンネル、モニター・チャンネル、ステレオ・チャンネルから可能です。デジタル・インサート・ポイントは全インプット・チャンネル、モニター・チャンネル、ステレオ・チャンネル、およびステレオ・アウトプットで使用できます。

アウトプットは8つのバス出力(グループ・アウト/マルチトラック・センド)と、ステレオ・アウトプット(2トラック・マスターフィード)、3つのAUXセンド(AUX1&2モノ、AUX3ステレオ)から構成されています。ステレオAUX3センドはパンを左または右いつばいに振って2種類のセンドとして使うこともできます。AUXセンド1,2は内蔵エフェクトにも接続可能です。

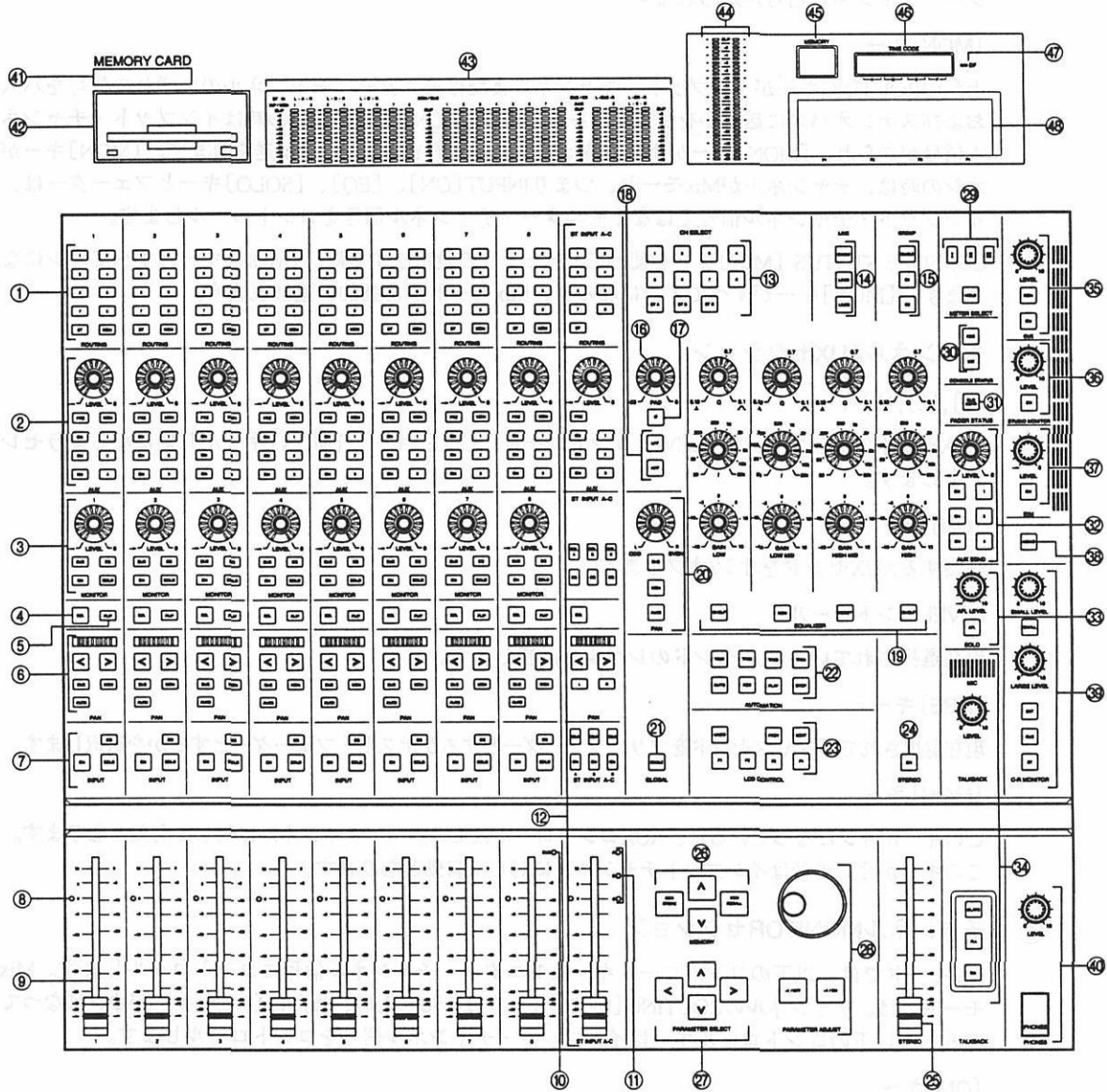
モニター・アウトプットは大きく二つのグループに分かれます。C-R/Phone/SMALL/LARGEとスタジオ/キューです。スタジオとキューの出力のソースはC-Rモニター信号またはAUXバス(CUE)です。C-Rモニター信号をソースとした場合でもソロ、ディムスイッチの影響を受けません。

DIO(デジタルI/O)端子はインプットチャンネルとモニターチャンネルに付いていますが、それぞれインプット/モニターの入力と8バスの出力を一端子で行います。たとえばDRU8との接続ではケーブル1本でI/O接続できます。

ミックス・オートメーションには2種類あります。ミックス・スナップショットのシーンメモリーによるオートメーションと、ダイナミックコントロールのオートメーションです。両方とも同時に、あるいは別々に使うことが出来、内部あるいは外部タイムコード(SMPTE、MTC)への同期ができます。

第1章 : DMC1000の概要

コンソール



① チャンネルROUTINGセクション

[1],[2],[3],[4],[5],[6],[7],[8],[ST]キー

インプット・チャンネル、モニター・チャンネルからバス、ステレオバスに信号を送るキーです。[MON]キーがオフの時はインプット・チャンネル信号が送られ、[MON]キーがオンの時はモニター・チャンネル信号が送られます。

[MON]キー

上記のROUTINGキーがインプット・チャンネルまたはモニター・チャンネルのいずれの信号をバスおよびステレオバスに送るかを決定するキーです。[MON]キーがオフの時はインプット・チャンネル信号が送られ、[MON]キーがオンの時はモニター・チャンネル信号が送られます。[MON]キーがオンの時は、チャンネルがMixモード、つまりINPUT[ON]、[EQ]、[SOLO]キーとフェーダーは、インプット・チャンネル信号ではなくモニター・チャンネル信号をコントロールします。

CONSOLE STATUS [MIX]キーを使ってMixモードの設定をする際、[MON]キーはすべてオンになります。[MON]キーがすべてオンになると、Mixモードが自動的に選ばれます。

② チャンネルAUXセクション

[1],[2],[3]キー

AUXセンド3系統に対して、LEVELコントロール、[PRE]キー、[MON]キーが有効になるようセレクトします。

[ON]キー

該当するAUXセンドをオン/オフします。

LEVELコントロール

現在選択されているAUXセンドのレベルを調整します。

[PRE]キー

現在選択されているAUXセンドをプリ・フェーダーとするかポスト・フェーダーとするかを選択します。

[MON]キー

このキーがオンになっていると、AUXコントロールはモニター・チャンネルに対して有効となります。このキーがオフの時はインプットチャンネルに対して有効となります。

③ チャンネルMONITORセクション

Recモードでは、以下のコントロールキーはモニター・チャンネル信号にコントロールします。Mixモードでは、チャンネルのROUTING[MON]キーをオンにした時、または[FLIP]キーがオンになっていると、以下のコントロールキーはインプット・チャンネル信号をコントロールします。

[ON]キー

モニター・チャンネルのオン/オフ(ミュート)するのに使います。

[EQ]キー

モニター・チャンネルのEQのオン/オフ(EQバイパス)するのに使います。

[SOLO]キー

モニター・チャンネルをソロにします。[SOLO]キーを押すと、該当するチャンネルが自動的に選択されます。

[BUS]キー

バス出力をモニター・チャンネル信号ソースとして選択し、モニターするのに使います。Mixモードでは、モニター・チャンネルをバス出力にパッチした場合は、そのバス出力をモニターすることはできません。

LEVELコントロール

モニター・チャンネルのレベルを調整します。

④ チャンネル[SEL]キー

EQUALIZERコントロール、PADコントロール、[Ø]キ = m、[LPF]および[HPF]キー、ロータリーPANコントロールでコントロールするチャンネルを選択します。

⑤ チャンネル[FLIP]キー

INPUTセクションの[ON]、[EQ]、[SOLO]の各キーおよびフェーダーがモニター・チャンネル信号にかかるように切り替えます。インプット・チャンネル信号はMONITORセクションの[ON]、[EQ]、[SOLO]の各キー、およびLEVELコントロールによってコントロールされます。

以上のコントロールは、Mixモードを選んだり、チャンネルのROUTING[MON]キーをオンにしたりすると、切り替わります。詳しくは28ページ「Recモード、Mixモード」をお読みください。

⑥ チャンネルPANセクション

[BUS],[MON],[AUX3]キー

PAN[<],[>]キーでパンさせる信号を選択するのに使います。つまり、[BUS]でインプット・チャンネル、[MON]でモニター・チャンネル、[AUX3]ではAUX[MON]キーで選んだインプット・チャンネルまたはモニター・チャンネルが選択されます。そのチャンネルが現在選ばれているチャンネルである場合は、これらのキーはメインのPAN[BUS]、[MON]、[AUX3]キーと並行して機能します。

[<],[>]キー

上記のキーを使って選んだチャンネル信号をパンさせるのに使います。つまり、[<]キーで左に、[>]キーで右に振れます。両方のキーを同時に押すと、パンはセンターとなります。そのチャンネルが現在選ばれているチャンネルの場合は、この二つのキーはロータリーPANコントロールと並行して機能します。

⑦ チャンネルINPUTセクション

Recモードでは、以下のコントロールキーはインプット・チャンネル信号をコントロールします。Mixモードでは、チャンネルのROUTING[MON]キーをオンにした時、または[FLIP]キーがオンになっていると、以下のコントロールキーはモニター・チャンネル信号をコントロールします。

[ON]キー

インプット・チャンネルをオン/オフ(ミュート)するのに使います。

[EQ]キー

インプット・チャンネルのEQをオン/オフ(EQバイパス)するのに使います。

[SOLO]キー

インプット・チャンネルをソロモードにします。[SOLO]キーを押すと、該当するチャンネルが自動的に選択されます。

⑧ 0 LED

このLEDは、フェーダーがユニティ・ゲイン(0)の位置に設定されると点灯します。

⑨ チャンネル・フェーダー

チャンネル・フェーダーは、選択されている状態によりインプット・チャンネルあるいはモニター・チャンネルの信号のレベルを調整します。これが、ステレオバス、8Busバス、ポスト・フェーダー・センド用のAUXバスに送られます。フェーダーの左側にある黒い数字を使用してください。

FADER STATUS [BUS MSTR] キーがオンになっていると、これらのフェーダーがバス出力レベルをコントロールし、BUSLED (チャンネル・フェーダー8の右上) が点灯します。フェーダー右側の赤い数字を使用してください。

[FLIP] キーを押すと、このフェーダーとMONITOR LEVEL コントロールつまみの機能が入れ替わります。

⑩ **BUS LED**

このLEDは、FADER STATUS [BUS MSTR] キーがオンになっているときに点灯し、チャンネル・フェーダーがバス出力をコントロールしていることを表します。

⑪ **A, B, C LED**

現在選択されているステレオ・チャンネルを示すLEDです。

⑫ **ST INPUT A-C**

モニター・チャンネル関連のコントロールがないこと以外、ST INPUT A-Cチャンネルのコントロールは他のチャンネルと同じ様に機能します。以下のようなわずかな相違があります。

[SEL A], [SEL B], [SEL C] キー

ステレオ・チャンネルがST INPUT A-Cのフェーダーでコントロールされるようにセレクトするときに使います。現在このセレクトキーで選ばれているステレオ・チャンネルは、ST INPUT A-Cチャンネルのフェーダーの右上にあるA,B,C LEDで表示されています。

[GLOBAL] キーがオンになっていると、SEL キーを押すと対応するAUXコントロールが選択されます。

PAN [L] & [R] キー

ステレオ・チャンネルの左右の信号のどちらをパンするかを選択します。ステレオ・チャンネルなので、パンされる信号は、各ステレオ・チャンネルごとに左右の信号、つまり全部で6つあるわけです。初期設定では、左右の信号はそれぞれ左右いつばいに振られます。

⑬ **CH SELECT キー**

チャンネルの選択に使用します。EQUALIZER [MON] キーがオフの時はこのキーでインプット・チャンネルが選択され、オンの時はこのキーでモニター・チャンネルが選択されます。ただし、[LINK1]、[LINK2] または [G1]、[G2] キーが点灯している時は、このキーはリンク機能がグループ機能として働きます。

⑭ **LINK キー**

チャンネル・リンク機能に使います。85ページ「チャンネルのリンク」をお読みください。

⑮ **GROUP キー**

フェーダー・グループ機能に使います。83ページ「フェーダーのグルーピング」をお読みください。

⑯ **ロータリーPADコントロール**

現在選択しているチャンネルのパッドレベルを設定します。

⑰ **[Ø] キー = m**

現在選択されているチャンネルの信号位相を逆転します。点灯していると位相が逆になり、消えていると通常の位相になります。

⑱ [LPF]&[HPF] キー

現在選択されているチャンネルのLPフィルター、HPフィルターをon/offします。両フィルターのローloff周波数は[Equaliz.]LCD画面を使って設定します。

⑲ EQUALIZERセクション

Q コントロール

EQバンドのQを調整します。

f コントロール

EQバンドの周波数を調整します。

GAINコントロール

EQバンドのブースト/カットを調整します。

[SHELF] キー

LOWおよびHIGH EQバンドのEQフィルターのタイプを選択します。

[RESET] キー

EQUALIZER GAINコントロールを0(センター位置)にリセットします。

[MON] キー

インプット・チャンネルまたはモニター・チャンネルのどちらをEQUALIZERコントロール、PADコントロール、[Ø]キ = m、[LPF][HPF]キーでコントロールするかを選択します。

⑳ PANセクション

[BUS],[MON],[AUX3] キー

PANコントロールでパンさせる信号を選択するのに使います。つまり、[BUS]でインプット・チャンネル、[MON]でモニター・チャンネル、[AUX3]ではAUX[MON]キーで選んだインプット・チャンネルまたはモニター・チャンネルが選択されます。これらのキーは、セレクトキーで現在選ばれているチャンネルセクションのPANキーと並行して機能します。

㉑ [GLOBAL] キー

このキーがオンになっていると、次のキーがグローバルに選択されます。AUX[1],[2],[3],[MON];PAN[BUS],[MON],[AUX3];[FLIP]、さらにST INPUT SELキーでステレオチャンネルが選ばれていると対応するAUXコントロールも機能します。

㉒ AUTOMATIONキー

[TRK] キー

オートメーション・トラックの再生をオン/オフします。Record Readyモードでは記録するトラックを選択するのに使います。記録中は、記録トラックの[TRK]キーが速く点滅し、再生中は記録されたトラックの[TRK]キーがゆっくり点滅します。データが入っていないトラックを再生にすると、その[TRK]キーは記録、再生時に点灯したままとなります。

[AUTO] キー

以下のLCD画面を選択するのに使います:オートメーション→[REC Pm]→フェーダー・エディット→[Edit Sw]→[At.MemEd]→[At.CntEd]→[AutoCopy]→[S/R Pm.]→[TimeCode]→[Disk]

[AUTO]キーを素早く2回押すと、オートメーションLCD画面が表示されます。

[REC] キー

Record Readyモードに入るときに使用します。

注意: SYNCソースが外部タイムコードになっているときに、Record Readyモードにした場合1秒以上正しい外部タイムコードを受信すると、記録が自動的に始まります。

[PLAY] キー

オートメーション再生の開始、Record Readyモードでの記録の開始に使用します。SYNCソースに外部タイムコードを選んだ場合、Record Readyモードでの再生、記録は正しい外部タイムコードを1秒以上受信すると自動的に始まります。

[STOP] キー

オートメーション再生、記録を停止します。SYNCソースに外部タイムコードを選んだ場合、再生、記録は外部タイムコードが止まると自動的に停止します。

②③ LCD CONTROL キー**[UNDO] キー**

最後に選んだLCD画面を選択します。

[PREV],[NEXT] キー

一度に4種類のLCD画面をスクロールします。[NEXT]キーを素早く2回押すと、[Function]LCD画面が現れます。[PREV]キーを2回押すと、[Function]メニューの最初のLCD画面が現れます。

[F1],[F2],[F3],[F4] キー

LCD画面の選択に使用します。LCD機能と一緒に使うこともあります。例:[F4]キーを押して終了。

②④ STEREO [ON] キー

ステレオ出力をオフにします。

②⑤ STEREO フェーダー

ステレオ出力レベルを調整します。

②⑥ MEMORY キー**[^],[V] キー**

シーンメモリーを選択します。

[STORE] キー

シーンメモリーを保存します。

[RECALL] キー

シーンメモリーを呼び出します。

②⑦ PARAMETER SELECT キー

LCD画面上のパラメーターを選択します。

②⑧ PARAMETER ADJUSTコントロール

[-1/OFF] キー

パラメーター値を1ずつ減らしたり、パラメーターをオフにしたり、あるいはAre You Sure?のメッセージにNOと答えるときに使います。

[+1/ON] キー

パラメーター値を1ずつ増やしたり、パラメーターをオンにしたり、あるいはAre You Sure?のメッセージにYESと答えるときに使います。

データエントリーホイール

パラメーター値の増減に使います。左に回すと値が小さくなり、右に回すと大きくなります。

②⑨ METER SELECTキー

[I] キー

メーターバンクIの信号ソースを、INP (インプット・チャンネル)、MON (モニター・チャンネル)、ST INP (ステレオ・チャンネル)の中から選びます。

[II] キー

メーターバンクIIの信号ソースを、MON (モニター・チャンネル)、BUS (バス出力)の中から選びます。

[III] キー

メーターバンクIIIの信号ソースを、AUX (AUXセンド)、CUE CR (CUE出力とC-Rモニター出力)の中から選びます。

[HOLD] キー

メーターのピークホールド機能をオン/オフします。

③⑩ CONSOLE STATUS [REC], [MIX] キー

Recモード、Mixモードを選択します。28ページ「Recモード、Mixモード」をお読みください。

③⑪ FADER STATUS

[BUS MSTR] キー

このキーがオフ (消灯) になっているときは、チャンネル・フェーダーはインプット・チャンネルまたはモニター・チャンネルのチャンネルレベルをコントロールします。フェーダー左側の黒い数字を使ってください。オン (点灯) のときはバス出力レベルをコントロールし、BUS LED (チャンネル・フェーダー8の右上) が点灯します。フェーダー右側の赤い数字を使用してください。

③⑫ AUX SENDセクション

LEVELコントロール

現在選択されているAUXセンドのレベルを調整します。

[ON] キー

該当するAUXセンドをON/OFF (ミュート) します。

[1], [2], [3] キー

LEVELコントロールの有効となるAUXセンドを選びます。[Config.]LCD画面上のパラメーター“Auto Effect Screen”がONになっていると、[Effect 1]および[Effect 2]LCD画面が、[1],[2]キーを押すとそれぞれ自動的に現れます。

③③ SOLOセクション**AFL LEVELコントロール**

AFLモードでは、C-Rモニターに送るソロバスのレベルを調整します。

[AFL] キー

ソロモード、AFLまたはSOLOを選択します。61ページ「SOLO[AFL]キー」をお読みください。

③④ TALKBACKセクション**MIC**

トークバック用内蔵コンデンサ・マイクロフォンです。

LEVEL

トークバック用マイクのレベルを調整します。

[SLATE] キー

このキーを押すとC-Rモニター出力をミュートし、正弦波を[Talkback]LCD画面を使って指定したバス出力に出力します。正弦波の周波数とレベルは[OSC]LCD画面で設定します。

[ALL] キー

このキーを押すとC-Rモニター出力が小さくなり、トークバックマイク信号をCUE、STUDIO MONITOR OUT (ANALOG) 出力、および[Talkback]LCD画面で指定したバスに出力します。

[ON] キー

このキーを押すとC-Rモニター出力が小さくなり、トークバックマイク信号をCUEおよびSTUDIO MONITOR OUT (ANALOG) 出力に送ります。

③⑤ CUEセクション**LEVELコントロール**

CUE MONITOR OUT (ANALOG) 出力の信号レベルを調整します。

[MON] キー

CUEおよびSTUDIO MONITOR OUT (ANALOG) 出力用のソースを選択します。キーをオフ(消灯)にするとCUE、つまりAUXバスモニタリング、オン(点灯)にするとC-Rモニター信号のモニタリングとなります。

[ON] キー

CUE MONITOR OUT (ANALOG) 出力をオン/オフします。

③⑥ STUDIO MONITORセクション**LEVELコントロール**

STUDIO MONITOR OUT (ANALOG) 出力の信号レベルを調整します。

[ON] キー

STUDIO MONITOR OUT (ANALOG) 出力をオン/オフします。

③7 DIMセクション

LEVELコントロール

ディムのかかったC-Rモニター信号のレベルを調整します。

[DIM] キー

このキーを押すと、上記のLEVELコントロールで設定したレベルにC-Rモニター信号がディムされます。TALKBACK[ON]または[ALL]キーを押すと、自動的にディム機能にはいります。

③8 [MONO] キー

オンにするとC-Rモニターの左右の信号が一緒になってモノになります。

③9 C-R MONITORセクション

SMALL LEVELコントロール

SMALL MONITOR OUT (ANALOG) 出力の信号レベルを調整します。

[SMALL] キー

C-Rモニター信号を、SMALLおよびLARGE MONITOR OUT (ANALOG) 出力の間で切り替えます。オフにするとLARGE MONITOR、オンにするとSMALL MONITORとなります。

LARGE LEVELコントロール

LARGE MONITOR OUT (ANALOG) 出力の信号レベルを調整します。

[EXT] キー

このキーを押すと、[EXT Mon]LCD画面が現れ、2TR MONITOR INPUTに接続されているソースをモニターソースに選択することができます。

[CUE] キー

このキーを押すと、[CUE Sel]LCD画面が現れ、AUXバスのうちのひとつをモニターソースに選ぶことができます。

[ST] キー

このキーを押すと、モニターソースがステレオバスに設定されます。

注意: 現在点灯して選ばれている [EXT], [CUE], [ST] のいずれかのキーを再度押すと、LARGEおよびSMALL MONITOR OUT (ANALOG) 出力がミュートされます。60ページ「C-Rモニター [EXT], [CUE], [ST] キー」をお読みください。

④0 PHONESセクション

引っ込んだところにある、ヘッドフォン接続用の1/4インチ、ステレオフォンジャックです。

LEVEL

ヘッドフォン音量を調整します。

④1 MEMORY CARDスロット

このRAMカードスロットにはYAMAHAのMDC64のRAMカードを挿入します。このカードには32のシーンメモリーを2つのバンクにストアできます。92ページ「RAMカードの使用」をお読みください。

④② フロッピーディスクドライブ

このフロッピーディスクドライブには、3.5インチ、2DDタイプのフロッピーディスクを挿入します。ディスクにはシーンメモリー、オートメーション・データ、セットアップ・データなどのDMC1000データが保存できます。88ページ「フロッピーディスクの操作」をお読みください。

④③ メーターバンクI, II, III

12セグメントのLEDバークラフで、インプット・チャンネル、モニター・チャンネル、ステレオ・チャンネル、バス出力、AUXセンド、キューモニター、C-Rモニターからの信号レベルをモニターします。72ページ「メーターバンクI, II, III」をお読みください。

④④ L STEREO Rメーター

32セグメントのLEDバークラフで、ステレオ出力レベルを表示します。72ページ「L STEREO Rメーター」をお読みください。

④⑤ シーンメモリー・ナンバー・ディスプレイ

7セグメントから構成される2桁のLEDで、シーンメモリー・ナンバーを表示します。右下隅にある赤い点は、現在のコンソール設定が、一番最後に呼び出されたシーンメモリーの内容と合っているか否かを示します。91ページ「シーンメモリー・ナンバーの表示」をお読みください。

④⑥ TIME CODEディスプレイ

7セグメント構成の8桁のLEDで、時間、分、秒、フレームのタイムコード値を表示します。

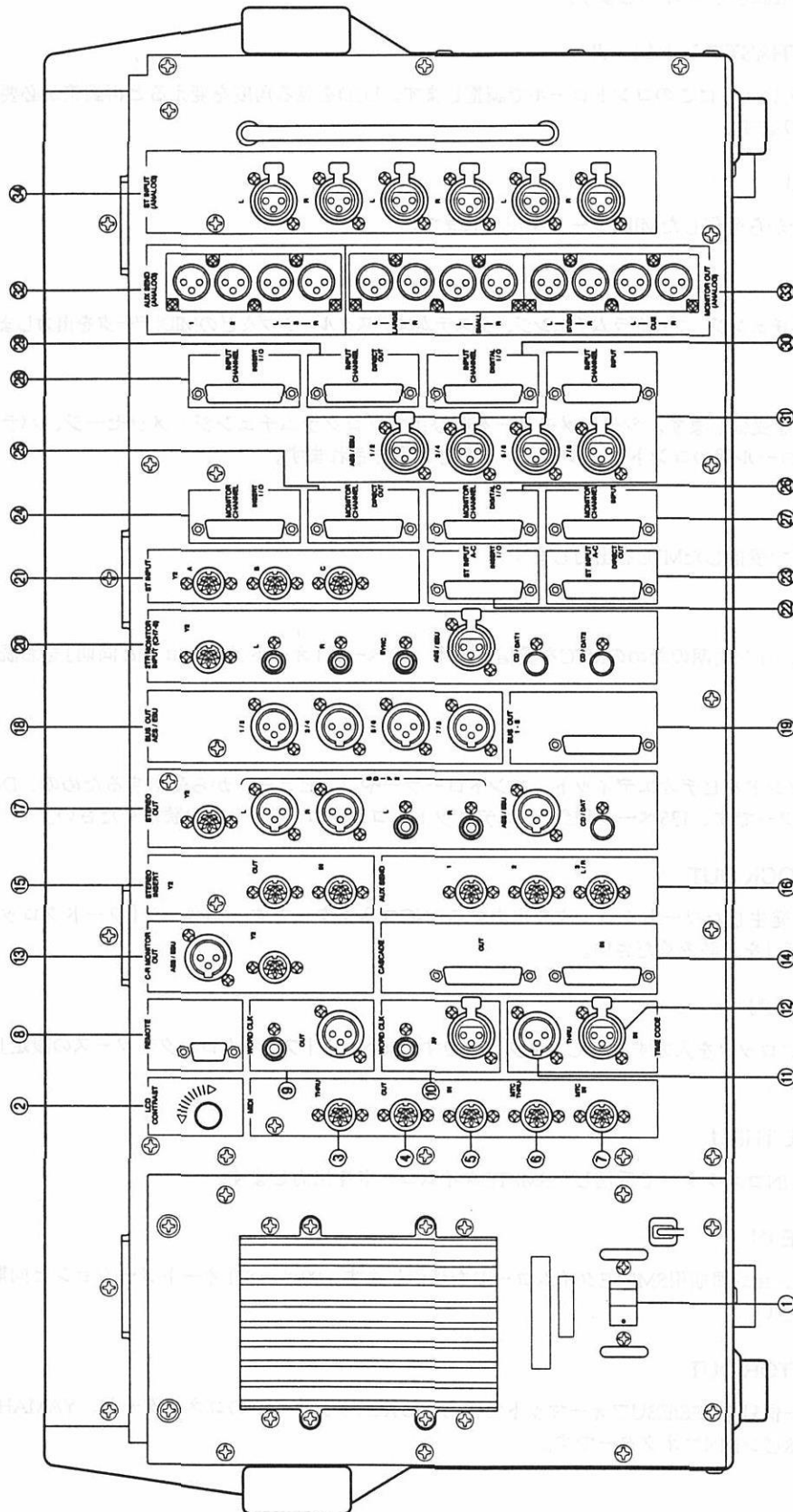
④⑦ LCD

8行40桁のLCDで、LCD機能、シーンメモリーのタイトル、操作確認メッセージ、エラーメッセージを表示します。

④⑧ DF LED

選択されたタイムコードのフレームタイプが30ドロップフレームの時に、このLEDが点灯します。

リアパネル



- ① **POWERスイッチ**
DMC1000の電源をオン/オフします。
- ② **LCD CONTRASTコントロール**
LCDが読み易いようにこのコントロールで調整します。LCDを見る角度を変えると再調整が必要になる場合があります。
- ③ **MIDI THRU**
MIDI IN端子から受信したMIDIデータを出力します。
- ④ **MIDI OUT**
コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、システムエクスクルーシブなどのMIDIデータを出力します。
- ⑤ **MIDI IN**
MIDIデータを受信します。シーンメモリーを呼び出すプログラムチェンジ・メッセージ、パラメーターコントロール用のコントロールチェンジなどが入力されます。
- ⑥ **MTC THRU**
MTC IN端子で受信したMTCを出力します。
- ⑦ **MTC IN**
オートメーション同期のためのMTCを受信します。99ページ「オートメーションと同期」をお読みください。
- ⑧ **REMOTE**
ESAM IIコマンドをビデオエディット・コントローラーやコンピュータから受信するための、D-sub9ピンコネクタです。135ページ「ビデオエディット・コントローラー」をお読みください。
- ⑨ **WORD CLOCK OUT**
DMC1000が発生したワードクロックを出力するBNCコネクタです。36ページ「ワードクロック・ソースの設定」をお読みください。
- ⑩ **WORD CLK IN**
外部ワードクロックを入力するBNCコネクタです。36ページ「ワードクロック・ソースの設定」をお読みください。
- ⑪ **TIMECODE THRU**
TIMECODE INコネクタで受信したSMPTEタイムコードを出力します。
- ⑫ **TIMECODE IN**
オートメーション同期用SMPTEタイムコードを受信します。99ページ「オートメーションと同期」をお読みください。
- ⑬ **C-R MONITOR OUT**
C-Rモニター信号をAES/EBUフォーマットで出力するXLR-3-32タイプのコネクタと、YAMAHA Y2で出力する8ピンDINコネクタです。

⑭ CASCADE IN/OUT

カスケード接続されたDMC1000どうしのステレオバス、AUXバス、8(グループ)バス、ソロバスを共通にする、2つのD-sub 25コネクタです。バスのフォーマットはYAMAHA Y2です。132ページ「DMC1000のカスケード接続」をお読みください。

⑮ STEREO INSERT Y2 IN/OUT

2つの8ピンDINコネクタでステレオ出力用のステレオ・インサート・ポイントを構成します。入出力フォーマットはYAMAHA Y2です。57ページ「ステレオ・インサート」をお読みください。

⑯ AUX SEND 1, 2, 3 L/R

YAMAHA Y2フォーマットでAUXセンド信号を出力する、3つの8ピンDINコネクタです。AUXセンド信号はアナログ信号としても出力されます。

⑰ STEREO OUT Y2, SDIF2, AES/EBU, CD/DAT

YAMAHA Y2フォーマットでマスターステレオ信号を出力する8ピンDINコネクタ。SDIF2フォーマットで出力する1組のXLR-3-32タイプコネクタと1組のBNCコネクタ。AES/EBUフォーマットで出力するXLR-3-32タイプコネクタ。および、CD/DATフォーマットで出力するRCA/ピンジャックコネクタです。

⑱ BUS OUT AES/EBU

AES/EBUフォーマットで8バス信号を2chずつ出力する、4つのXLR-3-32タイプコネクタです。

⑲ BUS OUT 1-8

8つのバス信号を出力するD-sub 25ピンコネクタです。出力フォーマットは、YAMAHA Y1, YAMAHA Y2, SDIF2, Mのいずれかに設定できます。55ページ「バス出力フォーマットの設定」をお読みください。

⑳ 2TR MONITOR INPUT (CH7-8) Y2, SDIF2, AES/EBU, CD/DAT1, CD/DAT2

2トラック・マスターレコーダーのアフターレックおよびプレーバックのモニターのためコンフィデンス・モニタリングと再生用に、レコーダーの出力端子をこれらのコネクタに接続します。次の入力フォーマットがあります。YAMAHA Y2フォーマット用8ピンDINコネクタ。SDIF2フォーマット用3つのBNCコネクタ。AES/EBUフォーマット用XLR-3-31タイプコネクタ。そして、CD/DATフォーマット信号用RCA/ピンジャックコネクタ。

㉑ ST INPUT Y2, A, B, C

YAMAHA Y2フォーマットの信号を3つのステレオ・チャンネルに入力するための、3本の8ピンDINコネクタです。

㉒ ST INPUT A-C INSERT I/O

3本のステレオ・チャンネルのインサート・センド/リターン信号を送受するD-sub 25ピンコネクタで、信号フォーマットはYAMAHA Y2です。

㉓ ST INPUT A-C DIRECT OUT

ステレオ・チャンネル信号:プリ・オン/オフ・スイッチ、プリ・フェーダー、ポスト・フェーダーいずれかを出力するD-sub 25ピンコネクタで、出力フォーマットはYAMAHA Y1, YAMAHA Y2, SDIF2, Mのいずれかに設定できます。51ページ「ダイレクト出力の設定」をお読みください。

㉔ MONITOR CHANNEL INSERT I/O

モニター・チャンネルのインサート・センド/リターン信号を送受するD-sub 25ピンコネクタで、信号フォーマットはYAMAHA Y2です。

㉔ MONITOR CHANNEL DIRECT OUT

モニター・チャンネル信号:プリ・オン/オフ・スイッチ、プリ・フェーダー、ポスト・フェーダーいずれかを出力するD-sub 25ピンコネクタで、出力フォーマットはYAMAHA Y1, YAMAHA Y2, SDIF2, Mのどれかに設定できます。51ページ「ダイレクト出力の設定」をお読みください。

㉕ MONITOR CHANNEL DIGITAL I/O

モニター・チャンネルへ信号を入力するD-sub 25ピンコネクタです。バス信号も出力します。信号フォーマットはYAMAHA Y2です。44ページ「入力フォーマットの設定」をお読みください。

㉖ MONITOR CHANNEL INPUT

モニター・チャンネルに信号を入力するD-sub 25ピンコネクタで、入力フォーマットはYAMAHA Y1, YAMAHA Y2, SDIF2, Mのいずれかに設定できます。44ページ「入力フォーマットの設定」をお読みください。

㉗ INPUT CHANNEL INSERT I/O

インプット・チャンネルのインサート・センド/リターン信号を送受するD-sub 25ピンコネクタで、信号フォーマットはYAMAHA Y2です。

㉘ INPUT CHANNEL DIRECT OUT

インプット・チャンネル信号:プリ・オン/オフ・スイッチ、プリ・フェーダー、ポスト・フェーダーを出力するD-sub 25ピンコネクタで、出力フォーマットはYAMAHA Y1, YAMAHA Y2, SDIF2, Mのどれかに設定できます。32ページ「ダイレクト出力の設定」をお読みください。

㉙ INPUT CHANNEL DIGITAL I/O

インプット・チャンネルへ信号を入力するD-sub 25ピンコネクタです。8つのバス信号も出力します。信号フォーマットはYAMAHA Y2です。31ページ「入力フォーマットの設定」をお読みください。

㉚ INPUT CHANNEL INPUT

インプット・チャンネルに信号を入力するD-sub 25ピンコネクタと4つのXLR-3-31タイプコネクタで、入力フォーマットはYAMAHA Y1, YAMAHA Y2, SDIF2, M, AES/EBUのいずれかに設定できます。31ページ「入力フォーマットの設定」をお読みください。

㉛ AUX SEND (ANALGO)

AUXセンド信号をアナログ信号として出力する4つのXLR-3-32タイプコネクタです。AUXセンド信号はYAMAHA Y2でデジタルでも出力されます。

㉜ MONITOR OUT (ANALOG)

Large, Small, Studio, Cueの各モニター・アナログ信号を出力する、8つのXLR-3-32タイプコネクタです。

㉝ ST INPUT (ANALOG)

3つのステレオ・チャンネルに6つのアナログ信号を入力する、6つのXLR-3-31タイプコネクタです。